

卓越した技能者（現代の名工）の表彰制度

趣旨

卓越した技能者の表彰制度は、技能の世界で活躍する職人や技能の世界を志す若者に目標を示し、技能者の地位と技能水準の向上、優れた技能の継承などを目的としている。

被表彰者の決定

被表彰者は、次の全ての要件を充たす者であって、都道府県知事、全国的な事業主団体等、全国的な障害者団体、個人のいずれかの推薦を受けた者のうちから、厚生労働大臣が技能者表彰審査委員の意見に基づき決定する。

①きわめてすぐれた技能を有する者、②現に表彰に係る技能を要する職業に従事している者、③技能を通じて労働者の福祉の増進及び産業の発展に寄与した者、④他の技能者の模範と認められる者

表彰

表彰は、厚生労働大臣が毎年1回、概ね150名の被表彰者に表彰状、卓越技能章（盾及び徽章）及び褒賞金（10万円）を授与している。

R5年度の受賞者は、今年度新設された障害者部門から3名が受賞し、その他に治工具製造工、金属加工機械組立工、発電機・電動機組立工、自動車部品機加工工などの工業系技術職から53名、染物・仕上工、婦人・子供服仕立職、建築大工、かわらふき工、造園師、土石製品製造工、木製家具・建具製造工、日本料理調理人などの生業系技能職97名の合計150名が受賞しました。

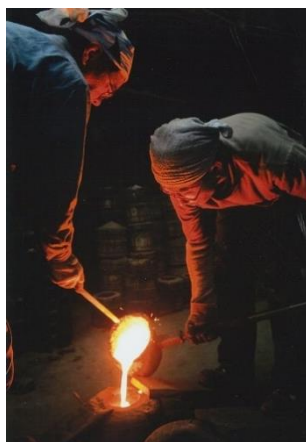
昭和42年に第1回の表彰が行われて以来、令和5年度の第57回の表彰までに7,096名が表彰されている。

令和5年度の代表的な被表彰者



齋藤 正夫氏
ソフトウェア開発技術者
株式会社アクセス・テクノロジー

1980年代のパソコンの登場時、視覚障害者のコミュニケーションツールとして、パソコンのデジタルデータの有効性に気付く、視覚障害者自身がキーボードを使用しながら音声ガイドを行うパソコンを操作することができる「スクリーンリーダー」を開発し、視覚障害者のコミュニケーションツール環境の改善に大きく貢献した。



宮 伸穂氏
手込製造工 釜定

釜の製作について、極めて純度の高い鋼の古来からの製鉄技術ではあるものの、手間がかかる故に消えてゆく伝統技法「たたら製鉄」を再現し、南部鉄器の開発を発展させた。また、ほかの職人ができない技法を駆使した作品を製作し、米国のメトロポリタン美術館などで数多くの賞を受賞するなど海外でも活躍している。



長谷川 裕樹氏
建築大工
有限会社池田技建

伝統木造住宅から寺社建築まで幅広く手がけ、建築大工技能の中でも難易度が高い、差し金などで複雑な勾配などあらゆる角度で正確に出す「規く術」に深く精通しており、技能グランプリでも優勝している。